

3月16日 1966

科学者京都会議事務局報 No. 2

(配布先: 継続委員, 事務局)

3月5日 10~12時 東京で継続委員会が開かれた。

出席者: 湯川, 朝永, 坂田, 豊田

議事要約

1. 日時の決定: 継続委員全員の都合のよい日ということで,
6月17(金), 18(土), 19(日)日の3日間(実質は
2日半)に決まった。
2. 場所の決定: 今回は東京神田の学士会館とする。その理由は
次の通り。(3月7日に申込済み。朝9時~夜9時)
3. 会議の性格: Pugwash 会議における Wien, London 会議の
ようなものに, influential personnel が出席するのに
便利な場所と決む。(次の説明)
4. 参加者: これまで会議, 勉強会に出てこられた方全員に招待状
を出す。(あるいは何らかの形で会に)
なお前から考慮されていた, 小谷, 有山, 大河内
恒藤, 坂本の諸氏を加える。
5. 会議の内容: 名古屋からの「証明」が当日朝まで未着だったため豊田
は「証明」原稿を用意できなかった(翌日, 到着)。
◎ そこで「証明」はやってみて原稿を継続委員に渡す。
これはうまく出来ていたらやる。
◎ ゲッテンゲン宣言の趣旨と現時点で再確認する。
◎ 核兵器と通常兵器の非連続性を明らかにする
これは最近および今後予想される日本政府の動きに
対処するためである。

以上